

ショートコメント vol.51 (2016年4月22日)

テーマ：大阪では個人預金が前年比で減少

～マイナス金利導入の影響か？ 景気の鈍化による影響の可能性もあり～

●直近の預金残高はプラス幅が拡大

全国的な預金の動向をみると、直近（2016年2月末）の国内銀行での残高は684.8兆円。前年比では3.9%増となった。前月の2.9%増に比べると、ややプラス幅が拡大している（図表1）。

2月中旬からマイナス金利がスタートし、消費者を中心とした様々な動きの変化が伝えられていたが、2月末の状況をみ限り、預金の増加傾向が強まる形となっている。

●預金種別によって異なるトレンド

預金は、一般預金、公金預金（地方公共団体などの預金）、金融機関預金などに分けられ、さらに一般預金には個人預金が含まれる。図表2で預金の増減に対するそれぞれの寄与度をみると、その種別によって動きに大きな違いがみられる。

全体を押し上げているのは主に金融機関預金であり、2月の急増が目立つ。その急激な動きから判断すると、マイナス金利の影響もあり得る。もちろん断定はできないものの、国債金利の低下も進むなか、資金の振り向け先が少なくなった結果とも考えられよう。

●大阪では個人預金が減少

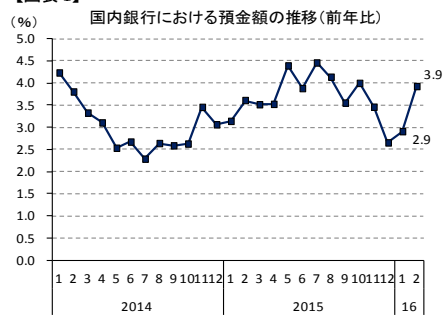
一方、先ほどの図表2をみると、個人預金はプラス幅が縮小しており、ここ数年では最低の規模となっている。

さらに、個人預金の動向を地域別にみると、全体的に右下がりの傾向がみられる中で、大阪は前年比でマイナスとなっている（図表3）。前年割れとなったのは1月からであるが、2月になって減少幅が大きくなっている。

マイナス金利の導入後、消費者の間では、定期預金の金利などもマイナスになるという不安感から、預金を下ろす動きが取りざたされていた。現金を金（ゴールド）に換える動きや、金庫を購入して家で保管する「タンス預金」の増加などである。

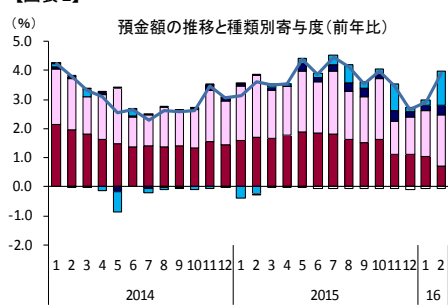
この動きが個人預金の増勢の鈍化、あるいは大阪での減少幅の拡大につながったのかどうかは、今のところは判断が難しい。趨勢的な下降は昨年後半から始まっていることから、景気の鈍化によって預金を取り崩す動きも考えられよう。

【図表1】



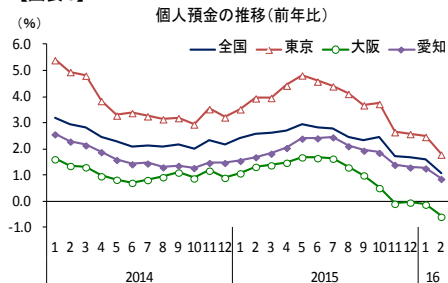
※月末残高の前年比
※国内銀行銀行勘定。ただし、整理回収機構、ゆうちょ銀行を除く
(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」

【図表2】



(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」

【図表3】



(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

●今後の注目点

今のところ個人預金が前年を下回っているのは、大阪のほか3県（山梨、和歌山、高知）である。今後の注目点としては、3月以降、この数がどう変化するかである。過去の預金動向をみる限り、景気循環との連動性はそれほど強いわけではない（図表4）。仮に預金の減少傾向が長期化するようであれば、マイナス金利導入の影響が大きいとも考えられよう。

【図表4】



※シャド一部分は景気後退局面

(出所)日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」
内閣府「景気動向指数」

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。